

県庁ギャラリー展を開催しました！～広島県庁舎の戦災復興～

2014.9.29 (レポーター 日高 愛)

県民の皆さまのすぐ近くに存在する広島県庁。実はそこには深い歴史があります。廃藩置県以降、広島県が成立し、広島県庁は誕生しました。社会情勢や自然災害、そして被爆・復興一まさに広島を歩んできた歴史とともに広島県庁も時代を生き抜いてきました。そんな広島県庁舎の歴史に焦点を当てた資料展示をご紹介します。

◆県庁ギャラリー展開催◆

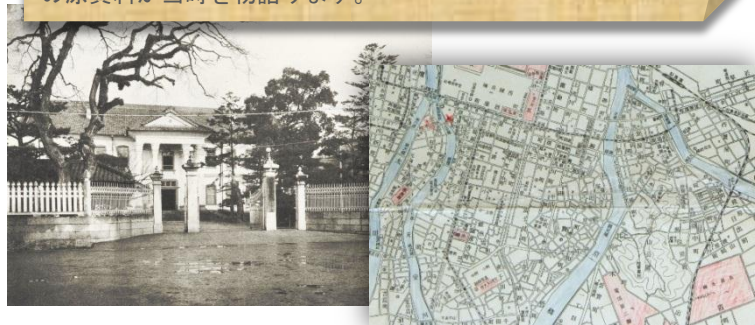
9/1～19まで、広島県庁2階の県民ギャラリーにて、56点の県庁舎の資料をパネルでご紹介しました！窓の外には広島の市街地。明るい日差しが差し込む県庁です。



準備の様子

◆明治11年水主町に新庁舎誕生◆

広島城内・国泰寺境内(小町)・仏護寺(寺町)を経て、水主町(現在の加古町)に新庁舎が誕生。原爆で被災するまで県行政の拠点となりました。明治30年代～昭和10年代までの県庁舎の写真・絵葉書・地図の原資料が当時を物語ります。



◆被爆直前・直後の広島県庁舎◆

県の行政文書等に残されていた写真。原爆によって、庁舎は壊滅し、表門の門柱だけが残されました。



被爆前



被爆後

◆昭和21年霞町の旧広島陸軍兵器補給廠に移転◆

終戦後、仮庁舎としていた東洋工業から移転。以後、10年にわたって本拠地となりました。



昭和21年秋、地元の小中学生を招いて開催された、広島県庁の部対抗秋季運動会。復興が始まったさなか、元気をくれる一枚です。

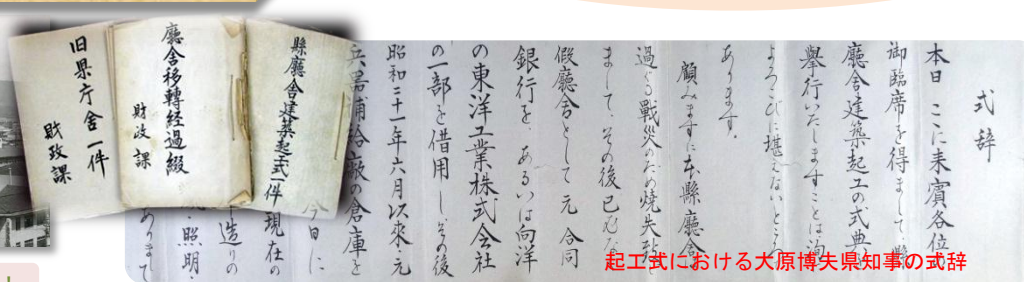
◆昭和31年基町新庁舎(現在の庁舎)竣工◆

起債や寄付金などで財源を確保し、当時の先進的な工法と技術を駆使して完成した新庁舎。戦災の復興を遂げ、約60年経ち、現在へとつながっています。



落成時の広島県庁舎

平成10年には、公共建築百選に選定されました！



起工式における大原博失県知事の式辞

街の中心地にたたずむ広島県庁。年季が入り、時代の跡があちこちに見られますが、写真・絵葉書・新聞・文書など残されてきたさまざまな資料が広島県庁舎の復興の歴史を今に教えてくれていることに面白さを感じました。自分だけではなく、ほかの人にも文書や資料からさまざまな視点と発見をしてもらえよう、できることを見つけながら、これからも更に文書館の業務に携わっていきたいと思います。